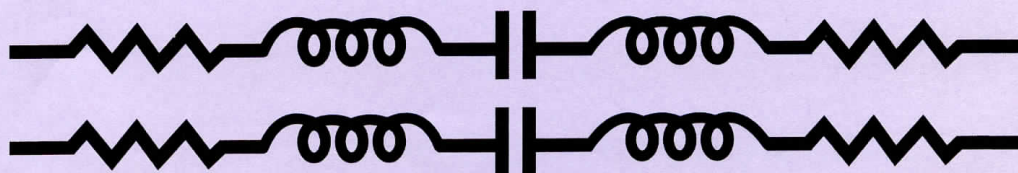


岩手大学電気電子情報科会誌

# きたかみ

第 57 号

2011 年 3 月 発行



# 岩手大学電気電子情報科会70周年記念事業のご案内

「岩手大学電気電子情報科会」は、2012年1月1日で創立70周年を迎えますが、これを記念し下記の事業を行うこととなりました。つきましては、奮ってご参加、ご協力のほどお願い申し上げます。

## 記

### 1. 感謝状の贈呈

祝賀会の席で電気電子情報科会に功績のあった方々を表彰いたします。

### 2. 記念講演会の開催

演 題：「岩手大学の現在と未来」（仮題）

講 師：岩手大学長 藤井克己先生

日時、会場：祝賀会会場で行います。

### 3. 記念祝賀会の開催

日時：平成23年10月29日(土)

午後1時30分 受付開始（詳細は同封の趣意書をご覧ください）

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

東京都千代田区九段北4-2-25、Tel：03-3261-9921

JR市ヶ谷駅から徒歩2-3分

### 4. 会誌「きたかみ」70周年記念特集号の発行

平成24年3月発行予定の「きたかみ58号」を「岩手大学電気電子情報科会70周年記念特集号」とし、通常の記事のほかに70周年記念事業に関する模様を掲載し、会員に広く広報します。

記念事業の内容は以上の4つですが、上記1、2の行事は、3の記念祝賀会と一緒に行われます。詳しくは、同封の「趣意書」をご覧ください。

## 年会費納入のお願い

年会費につきましては、卒業後年1,000円の年会費を10年ごとに1万円納入していただいております。第1回目のお願いを終了し、その後は卒業後10年に達した方に依頼の文書等を発送しております。

しかしながら平成12年以前の卒業の方で、納め忘れの方が大変多くいらっしゃいますので、再度納入のお願いをさせていただきます。

本年は科会創立70周年記念事業もあります。会の運営上、是非ご協力のほど、お願いいたします。

同封の郵便局の赤い振込用紙に卒業年・学科・氏名・電話番号をご記入の上振り込んで下さいますよう、よろしくお願いいたします。

# 目 次

|                              |                   |    |
|------------------------------|-------------------|----|
| 会長挨拶                         | 会長 柏葉安兵衛          | 1  |
| 電気電子工学コースの近況                 | 電気電子工学コース長 恒川佳隆   | 2  |
| 情報システム工学コースの近況               | 情報システム工学コース長 安倍正人 | 3  |
| 平成 22 年度総会特別講演               | 澤藤隆一              | 4  |
| 盛岡支部からの寄稿                    |                   | 6  |
| 小澤元会長を偲んで                    |                   | 10 |
| 池田俊夫先生を偲んで                   |                   | 12 |
| 草刈賞 第 7 回（平成 21 年度）草刈賞受賞者    |                   | 14 |
| 《支部だより》 平成 22 年度東京支部報告       |                   | 16 |
| 平成 22 年度仙台支部報告               |                   | 17 |
| 平成 22 年度盛岡支部報告               |                   | 18 |
| 平成 22 年度電気電子情報科会総会           |                   | 19 |
| 平成 22 年度電気電子情報科会総会議事録        |                   | 20 |
| 平成 21 年度決算書                  |                   | 21 |
| 平成 22 年度予算書                  |                   | 21 |
| 平成 22 年度電気電子情報科会役員名簿         |                   | 22 |
| 平成 22 年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿 |                   | 23 |
| 平成 22 年 年表                   |                   | 24 |
| 資料：理事会議事録                    |                   | 26 |
| 岩手大学電気電子情報科会会則               |                   | 27 |
| トピックス・編集後記                   |                   | 28 |
| 平成 23 年度総会並びに懇親会開催のご案内       |                   | 裏紙 |
| 創立 70 周年記念事業のご案内             | 綴じ込みカラーページ        |    |
| 年会費納入のお願い                    | 綴じ込みカラーページ        |    |

## ご 挨拶

会長 柏葉安兵衛（昭和38年(1963年)電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

会誌「きたかみ 57 号」をお届けできることを嬉しく思います。昨年の総会において、もう一期だけ会長をお引き受けすることになりました。皆様のご協力をいただきながら会の運営にあたりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さてご存じの方が多いと思いますが、1941 年（昭和 16 年）12 月 26 日に、母校工学部電気系工学科の前身である盛岡高等工業学校電気科の第一回生 32 名が卒業致しました。日本は直前の 12 月 8 日には太平洋戦争に突入し、戦域が急速に拡大した極めて困難な時代でしたので、3 ヶ月短縮の繰り上げ卒業と伺っております。従って本年は岩手大学工学部の前身が、初めて卒業生を送り出してから 70 年目を迎える記念すべき年になります。電気科第一回生は卒業後すぐの翌年 1 月 1 日に、同窓会「盛岡高工電気科会」を設立いたしました。これが現在の「岩手大学電気電子情報科会」の原点です。以来、科会は先輩諸氏の犠牲的な努力によって幾多の困難を乗り越えながら、今日会員 5000 名を超える大きな会に発展して参りました。

科会ではこれまで、創立 30 周年に「岩手大学電気科会 30 周年記念アルバム」を発行し、50 周年では「岩手大学電気科会創立 50 周年記念事業」を盛大に行い、60 周年では「草刈遜先生ご生誕 100 周年記念事業」を計画し、実施してきました。

このように科会では主要な節目ごとに記念の行事を行い、次の時代に向けて発展を目指してきました。来年 1 月 1 日には創立 70 周年を迎えますので、理事会で検討し昨年 6 月の総会にはかった結果、「岩手大学電気電子情報科会創立 70 周年記念事業」を今年から来年にかけて行うこととなりました。行事の一つとして、東京支部の絶大なるご支援のもとに、今年の 10 月 29 日(土)に東京「アルカディア市ヶ谷」で岩手大学藤井学長による記念講演会、祝賀会、感謝状贈呈を行います。詳細につきましては、同封の「趣意書」をご覧ください。この祝賀会は、記念事業の目玉でございますので、会員の皆様には是非ご参加頂きたいお願い申し上げます。

昨年 12 月、岩手大学名誉教授元電気電子工学科教授池田俊夫先生がお亡くなりになりました。先生は 1976 年 8 月に東北大学電子工学科教授から岩手大学電子工学科にご着任以来、1995 年 4 月に一関高専校長にご栄転なさるまでの 19 年間にわたって教育研究、大学運営にご尽力されました。私も先生のもとでご指導をいただきましたが、「温厚」という言葉が先生のためにあるのではないかと思われるほど温厚で、若々しい感じの先生でした。先生を思い出しますと、不思議に岩手大学学生歌の 4 番の歌詞が浮かんできます。先生のご指導を受けた会員は多数に上り、各地で活躍しています。先生のご指導に感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。追悼文として、先生の愛弟子である馬場守先生が葬儀の席で読まれた弔辞を本号に寄稿して頂きましたのでご覧ください。

今春の大学生の低い就職率が社会問題になっていますが、母校電気系工学科卒業生の就職状況は好調だったようで、喜ばしい限りです。これも日ごろ学生教育に努力されている先生方と、母校の高い評価を社会に定着させた会員の賜物であります。今後とも一層のご協力をお願いいたします。

科会では財政健全化のために卒業生から毎年 1,000 円の「年会費」をいただくことになっており、10 年分をまとめて 1 万円をご請求申し上げているところです(本号綴じ込みのカラーページをご参照下さい)。未納の方には同封の振り込み用紙（赤色）で、是非とも納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、今年の総会は会誌にご案内のとおり、70 周年記念祝賀会とは別に 6 月 11 日(土)に盛岡で開催されます。こちらにも是非ご参加ください。今号は内容の一部を盛岡支部のご協力を得て編集いたしました。

会員の皆様のご健康とご健闘を心からお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

# 電気電子工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 電気電子工学コース長 恒 川 佳 隆

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今春卒業予定の大学生の就職内定率（昨年12月1日現在）は前年同期を4.3ポイント下回り、68.8%だったことが、厚生労働・文部科学両省の調査で分りました。2年連続の過去最低の更新で、「就職氷河期」で最も厳しかった1999年同期（74.5%）より5.7ポイントも低い水準となっています。統計を取り始めた1996年度以来、初めて7割を割り込み、学生の就職事情の厳しさが一段と鮮明になっています。このような状況下にもかかわらず、当コースでは100社を超える企業からご来訪いただき、また多くの企業からご推薦をいただきました。その結果、希望者全員が内定することができました。これも会員の皆様がこれまで築いてこられた高い評価のお陰でありまして、衷心よりお礼申し上げます次第です。

今年度も本学科を卒業された方々を講師にお招きし、豊富な経験を基に通常の講義では網羅できない話題内容を含む特別講義を実施致しました。澤藤隆一氏（昭和47年卒）、池田隆夫氏（昭和35年卒）、齋藤新一氏（昭和49年卒）、川上公司氏（昭和55年卒）の皆様には大変興味深いご講演をいただきました。これから社会に飛び立つ学生にとって大変有意義な講義となっています。今後とも、卒業生の皆様には特別講義に関するご支援をお願い致します。

毎年実施しております首都圏方面への3年次学生の工場見学では、今年度は㈱東芝浜川崎工場、㈱NTTドコモ R&Dセンタ、日本電信電話㈱横須賀研究開発センタ、㈱フジクラ佐倉事業所を見学してきました。また、県内企業の工場見学としては、㈱ユーラスエナジー釜石および新日本製鐵㈱釜石製錬所を見学してしまし

た。各企業では本学科卒業生から心温まるお世話をいただきました。心より御礼申し上げますとともに、今後ともご支援をお願い致します。

人事面では、昨年12月に長田先生が教授に昇任されました。これまでの、磁気温度センサシステムやゼンソウの発熱制御システムに関する研究に加えて、さらに磁気ひずみの逆効果を利用した非破壊検査技術など活躍が期待されます。また、高橋和貴先生が昨年10月から1年間、オーストラリア国立大学に長期学外研修に出張されています。研究テーマは、「発散プラズマ中無電極静電イオン加速機構の解明と先進応用」ということで、今後の研究活動の発展に大きく寄与するものと期待しています。

昨年（2010年）12月に本学名誉教授の池田俊夫先生がお亡くなりになりました。享年80才でした。池田先生は1976年8月に、東北大学教授から本学電子工学科教授に着任され、1995年4月に一関工業高等専門学校長として転出されるまでの19年間を、電子工学科と電気電子工学科で教育研究にあたられました。その間、岩手大学評議員を務められるなど、管理運営にもご尽力され、その温厚なお人柄とともに多くの教職員に敬愛され、卒業生の皆様に慕われました。心からご冥福をお祈り致します。

入試面では、工学部、特に電気電子や情報系学科の人气が低迷し、まさに冬の時代が続いておりますが、教職員一同努力していく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援をお願い致します。

最後になりましたが、これからも社会が求める優秀な人材の育成に努めて参りたいと思います。会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致しますと共に、今後ともより一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 情報システム工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 情報システム工学コース長 安倍 正 人

電気電子情報科会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、当学科は昨年度の改組により、電気電子工学科と情報システム工学科が合同してできた学科です。改組からほぼ2年経ち、学科の運営も軌道に乗ってきました。当学科では、1年生の後期にコース分けを行っています。1年生の前期に開講された半年をかけての基礎ゼミナールなどにおいて、各コースの内容を十分に理解してもらえよう、今年は昨年にもまして十分に配慮いたしました。そして、その結果もあってか今年は全員が希望通りのコースへの配属となりました。

当コースの今年度の国際交流としては、吉森准教授が中心となって、キルギス共和国と岩手大学の光科学・情報技術の研究者が、互いの研究情報を交換し、学術的・文化的な相互交流を深めるために、キルギス-ジャパンジョイントワークショップ「フォトニクス・情報技術」(Kyrgyz-Japan Joint Workshop on Photonics and Information Technology 2010)が10月19日に岩手大学工学部で開催されました。このワークショップは、岩手大学とキルギス-ロシアスラブ大学、および国際科学技術センター(ISTC・注)が共同主催したものです。このシンポジウムを開催するのに合わせてキルギス共和国前在日本特命全権大使・現キルギス科学アカデミー教授のクタノフ博士、キルギス-ロシアスラブ大学教授のジーンバエフ博士など合わせて4名の研究者が工学部長を表敬訪問されました。そして、これまでの学術交流の実績をもとにして、同大学との間で学部間の学術交流協定および学生交流協定が締結されました。

また、今野教授と西安科技大学、西北農林科技大学との学術交流が平成22年度教育研究支援経費(海外渡航支援経費)を受けて行われました。

研究面では、今年も学生を中心とした研究発表等に対して以下のような多くの授賞がありました。学会名、受賞名、受賞者、研究論文題目名を以下に示します。

①日本光学会(応用物理学会)、光みらい奨励金 公募採択テーマ、小原正樹(情報工学専攻2年)、指導教員:吉森 久、「双曲面型体積インターフェログラムの計測に基づいた分光立体映像法」2月26日

②計測自動制御学会東北支部第257回研究集会、講演奨励賞、笹本益民(情報工学専攻2年)、5月27日

③第26回 NICOGRAPH 論文コンテスト 最優秀論文賞: Francisco Javier Menendez, Osama Halabi, Tadahiro Fujimoto, Norishige Chiba, Enhancing 3D Scenes Using a Laser Projector in Real-time、芸術科学会、2010年9月24日

④第26回 NICOGRAPH 論文コンテスト 審査員特別賞: Oyundolgor Khorloo, Zorig Gunjee, Batjargal Sosorbaram, Norishige Chiba, Fundamental Study on Wind Models for Animating Flexible Objects、芸術科学会、2010年9月24日

⑤第26回 NICOGRAPH 論文コンテスト 審査員特別賞: 竹中史雄、原美オサマ、藤本忠博、千葉則茂、テクスチャ投影を利用した多視点カメラ映像からのリアルタイムな形状復元法、芸術科学会、2010年9月24日

⑥電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌)「論文奨励賞」、明石卓也、Interactive Interface with Evolutionary Eye Sensing and Physiological Knowledge  
2010年9月2日

この一年間の人事異動をお知らせいたします。9月には、オサマ原美先生がカタル大学に助教授として転任されました。先生の益々のご活躍を期待します。一方、10月には兼岩憲先生が独立行政法人情報通信研究機構から情報コースに赴任されました。先生のご専門は人工知能、知識表現と推論、セマンティック Web です。

不況の影響で、来年度の就職状況は今年度と同様に非常に苦しいと感じていますが、教職員一同努力していく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

注) 国際科学技術センター(International Science and Technology Center, ISTC): 日本・米・EU・カナダ等からの拠出金により、ロシア・CIS 諸国の大量破壊兵器関連研究者・技術者の平和目的の研究プロジェクトを支援するために設立された国際機関。事務局本部はモスクワ。

# ー平成 22 年度総会講演ー

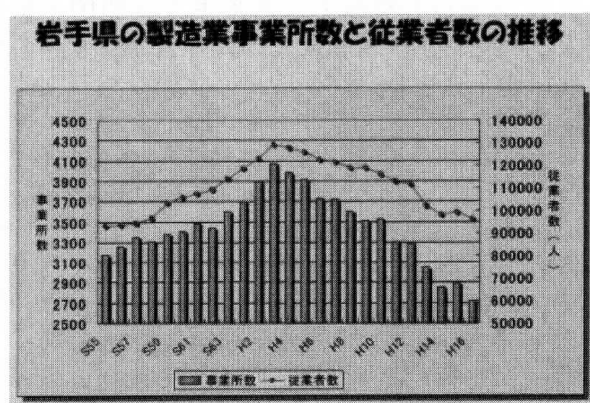
## 東京から見た岩手

澤 藤 隆 一 （昭和 47 年電気卒）

私が卒業した昭和 47 年当時、岩手県内の就職先といえば教員、東北電力、国鉄、電電公社、大手民間企業は谷村新興製作所ぐらいでした。したがって東京へ行くしかないと思いました。就職担当の一戸英敏先生がこの 3 つから選べと出した中の 2 社は電気の大企業ですが、私は当時まだ小さな企業だった千野製作所（現チノー）を選びました。この時代は先生が学生の就職先を指図する時代でした。一戸先生は「ここは君の 2 年先輩の梅津君が行っている、良い会社だよ」と仰いました。実は私の卒業研究テーマは「低キュリー温度フェライトコアを用いた精密温度制御」で、電力応用研究室（志田純一先生、関享士郎先生、菊池新司技官）が研究のために恒温槽を購入することになり、田葉井製作所（現：エスベック）のプラチナスシリーズを選んだのですが、納品時添付されてきた取説が温度調節計の千野製作所のものでした。今のエスベックでは考えられませんが、大阪へ電話したら「千野の取説だけあれば十分」との答え。これで千野を知ったのですが、実は選んだ真の理由は月給が高く賞与箇月数が多かったからです。日立、東芝、松下などよりずっと上でした。私は今でもビジネスが精密温度制御ですから、卒業研究のテーマがそのまま 38 年間続いていて、しかも後輩である長田洋先生の「ザゼンソウ温度制御」アルゴリズムをチノーが調節計に搭載して発売するなど、ずっと岩手大学とのご縁が続いていることをうれしく思います。

私が同窓会活動に入り込むきっかけとなったのは、仕事で苦戦していたときにお客様の責任者が高校の先輩であったことが判明後、その方の支援で苦境を脱出し、同窓であることがいかに強い絆であるかを身に沁みて体験してからです。今では高校、大学の同窓会活動の他、「東

京もりおかふるさと会」や「雫石町友会」の幹事などのふるさと活動、平成 21 年に創設された「在京盛岡広域産業人会」会長としての活動などをしております。この産業人会ができた理由は、岩手大学の在る盛岡広域 8 市町村の企業がどんどん撤退し、人口も減り、危機的状況にある中で「どげんかせんといかん」という意識からです。この産業人会設立総会のときに岩手大学の藤井克己学長が基調講演をして下さいました。下図はその講演時の引用図です。



この図でわかるように岩手県では平成 3 年をピークに製造業の事業所数は 2/3 になり、従業員数も 3 割近く減っています。1960 年代から高度成長した日本は 1990 年代、2000 年代と「失われた 20 年」を過ごし、中国など新興国の爆発的成長や、韓国やアジア諸国、欧米先進国も成長する中で、ひとり日本だけが置いてけぼりになっています。この間日本は国際貢献の度合いを強め、対外資産も 10 倍になっています。それなのに GDP は横バイで、円高とデフレで個人所得は減って消費が減退し、少子高齢化、ついに人口まで減少に転じました。しかも 2008 年 9 月のリーマンショックは世界同時不況をもたらし、ソブリンリスクがクローズアップされました。今私たちはパラダイムシフトの真只中にいます。現在起きている事象を反転し

たところに生きる道あり、イノベーションが必要です。

パラダイムシフトとは、

◎ 20 世紀型産業構造の終焉 製造→B R I C s

◎ 資本主義社会→知識社会 情報の重要性

◎ グローバル金融経済支配 リーマンショック

◎ ソブリンリスク→金融不安 為替 株

◎ 資源枯渇の恐れ→困り込み 特に中国

◎ 世界の人口爆発→食糧、水供給の不安

といった点です。私たちはもはや過去のコンセプトにとらわれてはいけません。岩手で起きていることは、日本の「地方」に共通しています。唯一の例外は沖縄です。大都市圏への人口移動が起きて、地方の過疎化が進行しています。円高、デフレ、高率法人税によって製造工場は海外へ逃げ出し、高齢者は医療や買い物などに便利なところに引っ越す結果、ウォーターフロントにマンション群、田舎に空き家が増えています。老後を沖縄で、と言う人が移住します。一方地球温暖化で大都市圏のヒートアイランド現象が進み、仙台が年間を通じてもっとも住み易い地域になっている気がします。それが盛岡になる日はそう遠くない気がします。

岩手のアイデンティティは

景観・・・岩手山、北上川、陸中海岸、高原  
誇り・・・宮沢賢治、石川啄木、民話の故郷  
食べ物・・・山菜、漬物、野菜、海草、鮭、肉  
人情・・・忍耐強い、でしゃばらない、親切  
言葉・・・内陸：過去形表現、沿岸：関西風  
東京と違うところ・・・高層ビル、富士山、金融機関、医師不足、コンビニ、冬の寒さ、夏の暑さ、紅葉や空の色、交通機関  
といったところです。岩手の良さを知ってもらい、岩手にヒトを呼ぶ、産業振興を図るための様々な取り組みが必要です。

「在京盛岡広域産業人会」が出来たのは、単に企業誘致という問題だけではなく、観光や農林業、6 次産業、再生可能エネルギー利用など、これから求められる産業や技術分野をこの地域で発展させるためのお手伝いをしよう、と言う目的です。同窓会として大学に全面的に協力し

ようとする中で、岩手大学が連携している盛岡市や盛岡広域 8 市町村の振興に協力することは当然です。同じ意思を持つ人たちに呼びかけてこの会を作りました。まず現状を視察するために現地視察会を行います。私は雫石の出身なので、自分の良く知る雫石ならばどうだろう？と考えて町の施策を調べました。余りにも総花的です。町役場に乗り込んで町長と議論しました。あれも必要、これも必要でしょうが、成果を町民に示すためには「重点志向」が必要です、何をめざすか、ハッキリさせましょうよ、と提言して、雫石のターゲットはこれだと思います、と明確に文書化して指摘しました。日本でも生き生きした地方があります。鹿児島県の『やねだん』集落や大分県の『大山町農協』、活性化した地域に共通なのは「バカと言えるほどの情熱家」が存在し、行政はサポートするだけで、自主性に任していることです。盛岡広域 8 市町村はそれぞれに地域性がありますが、もっともリソース的に厳しい葛巻町が、町を挙げて振興策を推進しています。すべてに共通するのは、国策である「農商工連携」の適地であり、食品加工への進出も含めて岩手大学を大いに利用すべきという点です。また観光は重要な資源ですし、植物工場、畜産、バイオマスや林業、再生可能エネルギー利用などの面で、いかに情報発信を強めるかという点がこれからの鍵となるでしょう。産業人会の輪はまだ小さいですが、これが広がって行くと、岩手の良さが見直されて、やがていびつに進行している日本の人口移動が修正されるでしょう。

岩手大学は農学部と工学部が共存しています。ザゼンソウ研究もそうですが、まさに農工連携に最適な大学で、ここに商の仕組みを導入するために産業人会がお役に立てればと考えます。これからは自動車もモータで動き、分散電源やスマートグリッド、デジタルコンテンツなど、電気電子・情報システムの時代です。岩手の"大地"と"ひと"のために地域に貢献する岩手大学、我等が未来は明るいと思います。ご静聴有難うございました。

## ー盛岡支部からの寄稿ー

### 「ゆいとぴあ盛南」

旗 福 寛（昭和 38 年電気卒）

平成 22 年 12 月東北新幹線は東京ー青森が全線開通した。ことをきっかけに盛岡を離れて何十年という方々に、最近の盛岡の様子をちょこっと紹介したい。

表題の「ゆいとぴあ盛南」とは、昭和 63 年にはじまった「盛岡南新都市土地区画整理事業」の愛称である。

昭和 40 年代に入って盛岡周辺町村の人口と自動車の急激な増加に対して、当時の工藤巖市長は、盛岡市と周辺町村を含む広大な道路網構想を打出した。その中心区域が盛岡の西南の方向、太田、本宮地区であったので「盛南開発」と呼ばれ、これが「ゆいとぴあ盛南」の基になっている。「ゆいとぴあ盛南」の「ゆい」は「結い」で、この辺りの農村では田植えや稲刈りの時、親類や地域の人々の共同作業は当たり前の習慣であった。

昭和 30 年代までの盛岡の町は江戸時代の町割りとあまり変わっていないといわれている。盛岡の市街図は東は八幡宮から西は盛岡駅、南は仙北町から北は高松の池あたりまでの方形におさまっていた。

盛岡の市街が変わった最初は、120 年前の明治 23 年、東北本線が一関から盛岡まで延伸開通したときであろう。このとき開運橋が建設され駅と市街が結ばれた。旧陸軍騎兵第三旅団、観武ヶ原練兵場が戦後開墾され、青山町が形成された。また、昭和 29 年には盛岡城のお堀、亀ヶ池を半分埋立てて東大通商店街を作り、中の橋から駅まで通り抜けできるようになった。昭和 47 年、当時東北では最大級の町、松園ニュータウンができて、ベビーブーム世代の人口増加に備えた。

さて、昭和の「盛南開発」は平成へ時代が変わって「ゆいとぴあ盛南」として計画が進行し、平成 10 年頃から徐々に新街区が形成された。平成 23 年 1 月現在 80%は仕上がっているように思う。「ゆいとぴあ盛南」の出現によって盛

岡の市街は盛岡駅を中心に半径 2 km程度の円形となった。

「ゆいとぴあ盛南」地区にはミュージアムが多い。

1. 原敬記念館（原敬生家）
2. 先人記念館（新渡戸稲造、米内光正、金田一京助など）
3. 子ども科学館（地球の自転を証明するフーコーの巨大振り子など）
4. 遺跡の学び館（市内大新町遺跡より出土した日本最大級の縄文土器、高さ 93 cm など）
5. 岩手県立美術館（船越保武、松本俊介、萬鐵五郎など）
6. 志波城古代公園（坂上田村麻呂による最北端の城柵、太田方八丁地内の東北自動車道の路線調査で見つかる）

などである。

さて、筆者が小学 4、5 年生（昭和 25、6 年）頃、クイズ番組の元祖と言われている NHK の「話の泉」（司会、和田信賢アナウンサー）に「国鉄本線のなかで駅と駅の距離が最も長い所と最も短いところはどこか」という問題が出た。最も長い所は北海道の〇〇駅ー××駅だったと思ったが、最も短いところは盛岡ー仙北町間 1.8 kmであった。

先にも触れたが東北本線が一ノ関から盛岡にたどり着き、盛岡駅が開業してから 120 年になる。盛岡駅は当初、現在の仙北町駅付近が建設候補だった。しかし、仙北町の人たちは「治安の悪化」を理由に反対した。そこで町からすこし離れた本宮地区に計画が変更された。本宮の人たちは「汽車の煙で農作物がだめになる」という理由で反対した。この時、県知事が斡旋に乗り出し今の場所、当時の厨川村平戸という、北上川と雫石川の間の河川敷に決まった。そのため盛岡駅と中心地域とを結ぶのに北上川に開運橋が架けられた。

さて、20 年前には駅の設置に反対した仙北

町の人たちは、盛岡駅前の賑わいを見て、明治44年になって自分たちも駅誘致運動をはじめた。それにはある期待があった。そのとき内務大臣で鉄道院総裁に就任したばかりの原敬に頼むことである。しかし、原敬はこの話を聞いてウンとは言わなかった。東海道本線、東京－横浜間の平均駅距離は6km、汽笛一声、新橋－東京間でさえ1.9kmなのに、どうして東北の田舎町に1.8kmで駅が設置できようか。しかし、結局5年後、大正4年1月仙北町駅が開業した。最近、仙北町駅には西口ができた。この西口を出て、さらに西に真っ直ぐ1.8km、徒歩20分ほどで、盛岡市本宮字熊堂93番地の1「原敬生家－原敬記念館」にたどり着く。

大正7年原敬内閣が成立すると山田線、花輪

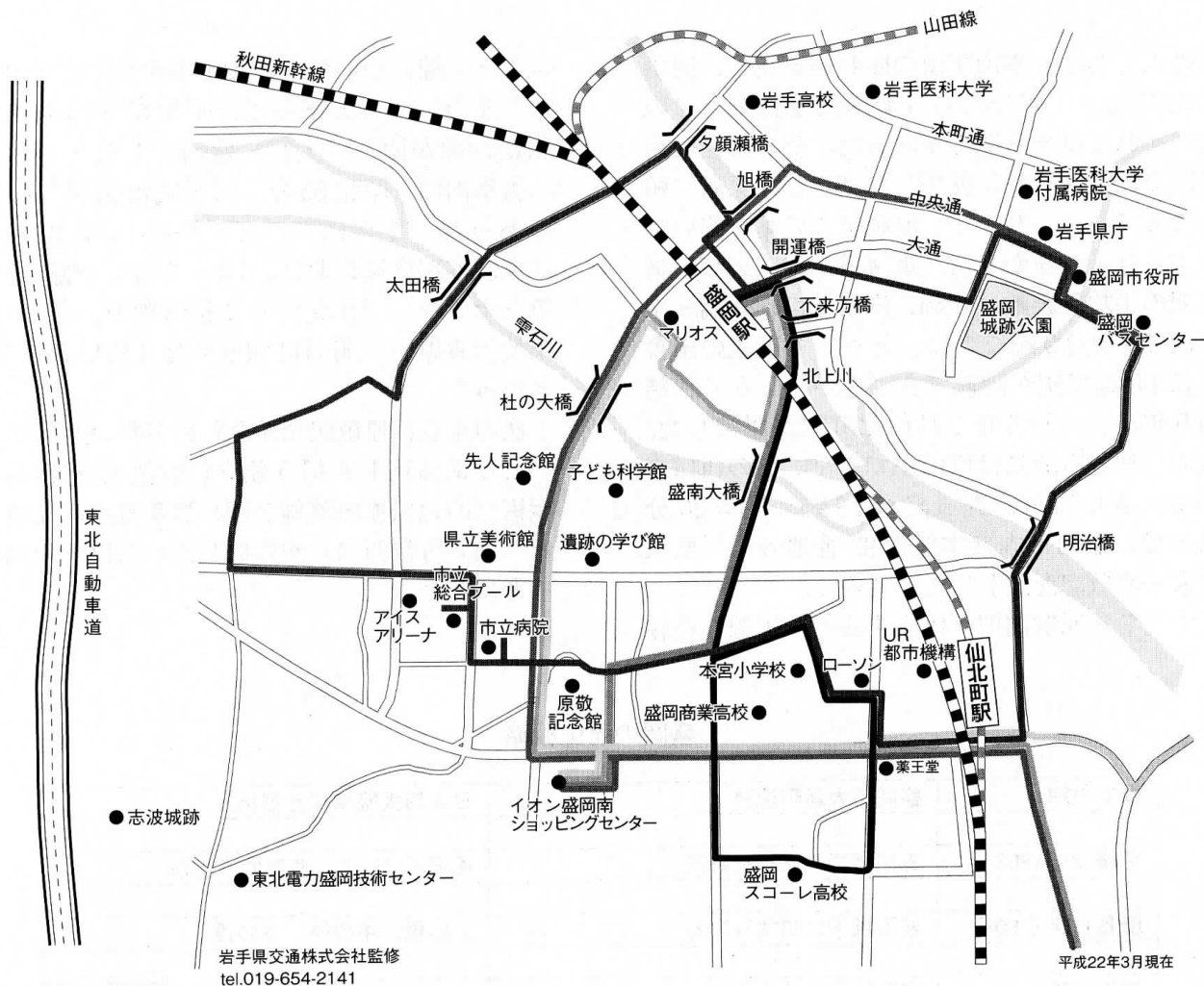
線など支線についても建設工事が全国に広がった。また、ずっと下って、昭和57年6月、東北新幹線が開業（大宮－盛岡）したときは鈴木善幸内閣（昭和55年7月～昭和57年11月）であった。さらに下って、平成14年12月には東北本線盛岡以北は、JRから経営分離され、第三セクター「IGRいわて銀河鉄道」となり、県境青森県三戸町目時駅からは「青い森鉄道」となった。

次の年表は原敬記念館発行の資料、地図は「ゆいとぴあ盛南」を担う独立行政法人 都市再生機構（旧地域振興整備公団）岩手都市開発事務所（仙北町駅西口）が作成したバス路線地図を参考にした。

### 盛岡の歴史概略

|             |                  |                     |
|-------------|------------------|---------------------|
| 縄文中期        | 盛岡市大新町遺跡         | 日本最大級縄文土器出土         |
| 延暦22年(803)  | 志波城築城（田村麻呂）      | 胆沢城（802）、多賀城（724）   |
| 慶長13年(1608) | 盛岡城下の町並み現る       | 上の橋、中の橋、下の橋         |
| 明治3年        | 岩手師範学校開設         | 現岩手大学教育学部           |
| 明治23年(1890) | 盛岡駅（旧厨川村平戸に）開業   |                     |
| 明治33年(1900) | 逓信大臣原敬（鉄道所管）     | 北上川船運の衰退            |
| 明治35年(1902) | 盛岡高等農林創設         | 現農学部                |
| 明治44年(1911) | 第二代鉄道院総裁 原敬      | 初代鉄道院総裁は後藤新平        |
| 大正4年(1915)  | 仙北町駅開業           | 本文参照                |
| 大正7年(1918)  | 厨川駅開業            | 原敬内閣成立              |
| 昭和14年(1939) | 山田線（盛岡－釜石）全通     | 着工は大正10年            |
| 同年          | 盛岡高等工業学校創設       | 現工学部、電気科会は昭和17年1月発足 |
| 昭和20年(1945) | 終戦               | 盛岡駅前空襲、155戸焼失       |
| 昭和29年(1954) | 盛岡城内亀ヶ池に東大通商店街   |                     |
| 昭和41年(1966) | 田沢湖線開業           | 橋場線と小保内線をつなぐ        |
| 昭和43年(1968) | 東北本線複線電化完成       | 四十四田ダム完成            |
| 昭和44年(1969) | 盛岡バイパス開通（現国道4号）  | 北大橋－北山－岩山－南大橋       |
| 昭和47年(1972) | 松園ニュータウン入居開始     | 知事千田正               |
| 昭和52年(1977) | 東北自動車道盛岡まで開通     | 東北道脇に志波城遺跡確認        |
| 昭和57年(1982) | 東北新幹線（盛岡－大宮）開業   | 鈴木善幸内閣              |
| 昭和60年(1985) | 東北新幹線（盛岡－上野）開業   |                     |
| 平成3年(1991)  | 東北新幹線東京駅乗り入れ     |                     |
| 平成7年(1995)  | 盛岡南新都市区画整理事業起工   | 知事増田寛也、市長桑島博        |
| 平成9年(1997)  | 秋田新幹線運行開始        |                     |
| 平成12年(2000) | 東北新幹線八戸延伸        |                     |
| 平成14年(2002) | IGRいわて銀河鉄道 開業    | 青い森鉄道へ直結            |
| 平成22年12月    | 東北新幹線全線（東京－青森）開通 |                     |

－盛岡支部からの寄稿－



## 今にして思えば

池 野 正 樹（昭和46年電子卒）

私は電子工学科2回生（昭和46年卒）です。一戸英敏先生が電磁気学の講義でお使いになった教科書、竹山説三著『電磁気学現象理論』が美術書に見えたぐらい、出来の悪い学生でした。試験がわからないのは当たり前ですが、講義が解らないのでは万歳（才？）。

今にして思えばよく卒業できたものです。還暦を過ぎた今、改めて、諸先生方の学問を越えたご温情に思いがいたりします。そんな私に正月早々、旗福先生から「原稿用紙で4枚」の申し渡しがありました。

学生の時には学問にあまり興味がなかったのですが、卒業してから趣味の調べ物で図書館にお邪魔するようになり、改めて大学の懐の深さを思い知らされました。その話を二つ三つ。

私の趣味は「星」。

ガリレオは4世紀程前、人類で初めて望遠鏡を宇宙に向け、数々の発見をしました。月のクレーター、木星の衛星、天の川が星の密集であること、そして太陽の黒点等、当時のアリストテレス的な完全無欠の宇宙観を根底から覆す現象を目の当たりにしました。その興奮を『星界

の報告』として残しています。そのガリレオ望遠鏡の復元と観測の追体験を思い立ちました。ガリレオ自身のスケッチや観測データを探しに国会図書館に行ったが無く、調べてもらったら、なんとガリレオの論文集が岩手大学と筑波大学の図書館に有ることがわかりました。そして、ありました。

宮沢賢治の作品には「星」がたくさんちりばめられていることから、私は興味をもっていました。賢治は、盛岡中学（現盛岡一高）、盛岡高等農林（現岩手大学農学部）に籍を置き多感な青春を盛岡で過ごしています。「賢治と星」との出会いを求めて、また図書館に行きました。高等農林の図書目録は、当時のものと思われる古い木製の引き出しに収まっていました。明治・大正期の天文書は十数冊ありましたが、中でも、明治43年出版の『新撰恒星圖』には感激しました。半畳程の大きさの掛図で、天の川が上から下に煙ったように流れていたのです。

星図は星空の地図で、いろいろな図法が用い

られますが、天の川が垂直に描かれたものは初めて見ました。

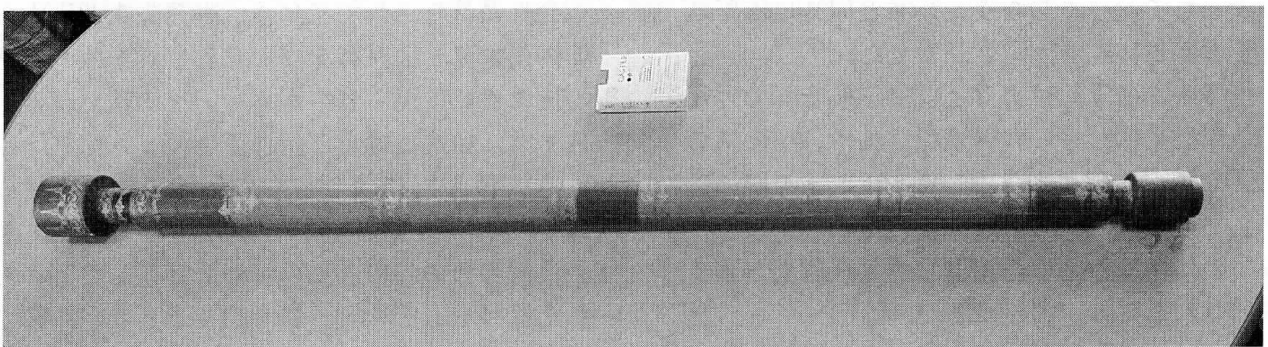
賢治は『銀河鉄道の夜』を次のように書き出しています。

「先生は、黒板へ吊るした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところをさしながら、みんなに問いかけました・・・」

若き賢治も記憶にとどめた一幅であろうと、一人確信しました。他にも明治期の日本天文学会の「天文月報」や、明治41年発行の水沢臨時緯度観測所長、木村栄博士の「緯度変化に就いて」等も目にすることができました。

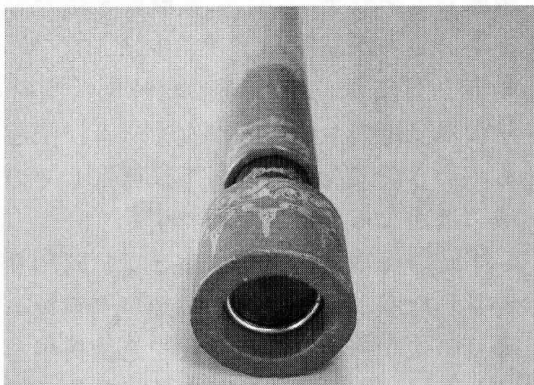
今にして思えば、宝の山で4年間惰眠を貪っていたような。

おわりに、卒業して大分たってからですが、「電気回路学」を教わった岩田純蔵先生は宮沢賢治の甥御さんだったそうです。

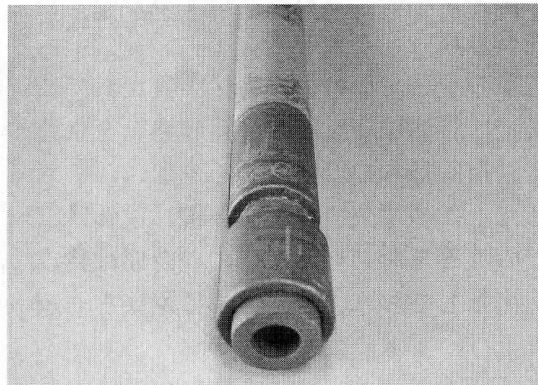


筆者が製作復元したガリレオの望遠鏡

長さ:980mm、口径:16mm、材質:紙(ガリレオの実物は木製)



対物レンズ側



接眼レンズ側

## 小澤元会長を偲んで

### 小澤元会長を偲ぶ

山 崎 時 男（昭和 24 年専門 8 回卒）



岩手大学電気科会第 3 代会長小澤甚一郎さんは、初代草刈遜先生、第 2 代阿部源祐さん（高工第 1 回）のあとを受け、昭和 30 年に就任されました。盛岡高工第 3 回で私の 5 年先輩です。私も電気科会を通して

終生、種々ご教示ご指導を頂きました。

盛岡高工第 3 回生は待望の新校舎が竣工した昭和 16 年春の入学でした。然し在学中に太平洋戦争が始まり、戦時繰上げ卒業で昭和 18 年秋卒業されております。小澤さんは卒業時に日本発送電株式会社（戦後、占領軍の指示により実質上、全国 9 つの電力会社に分割改編）に就職決定しておりましたが、卒業と同時に海軍飛行予備学生に志願入隊されました。

小澤さんの手記によると、海軍航空隊の九州佐世保上空における戦闘飛行訓練中、搭乗機の尾翼昇降舵索が突然切断し急遽落下傘で脱出降下し、辛うじて一命をとりとめることができた瞬間の体験で、心理作用に対する反省から強く確信されたことがありました。

それは「真に自己を救い得る意識は、利己心にあらず、より大きい生命意識であり、そこに開眼することによってのみ、吾人は真のより大いなる幸福感を把握できると確信するものである」と述べられております。

この意識のもと、その後の生活を貫かれてこられ、又、伝統的民族意識の「正義感」を生涯お持ちで、祖国日本の繁栄を強く念願されておられました。この事故で頭部を負傷、佐賀県嬉野温泉での療養を命ぜられた。この時期は特攻機が逐次出撃しており、小澤さんは療養を一週間で切り上げ、原隊に復帰されております。

小澤さんが会長になられた昭和 30 年は、我

が国は漸く戦後復興へ、所謂、神武景気へ進んでいた時期でした。母校では電気工学科第 4 回生から第 8 回生が在学の頃に、私も一戸英敏先生の研究室に在職し、電気科会の校内役員として直接、会長からご薫陶を頂きました。

小澤会長が電気科会に関った主な事柄は“きたかみ”第 56 号に掲載の、ご葬儀に於ける柏葉会長の弔辞に述べられている通りです。電気科会を益々盛んにするため、全国各地の支部活動を推進し併せて会員の職場の活動を促進され、これらの事が以後の電気科会発展の原動力となりました。会長就任直前の会誌“きたかみ”第 9 号（職域特集）発行に際し、編集者の中心となり東北電力岩手支店職場特集号の形で制作されております。

会長に就任されて二年後、勤務先東北電力の転勤により、会長職を変われ盛岡を離れ、その後に盛岡に戻られてからも、その情熱は変わらず常に私達後輩をご指導下さいました。

電気科会相談役としての小澤さんが、平成 11 年 3 月 9 日催された岩手大学電気科会・新会員歓迎会の為に「私の青春」と題して纏められた資料を、その時、私も頂きました。小澤さんが一昨年暮に亡くなられてから、この冊子を改めて読み、偶々太平洋戦争の激動の時期に青春時代を過された小澤さんの偉業を偲び、只々敬服しております。ここに概要を紹介します。

小澤さんが盛岡高工在学中に、太平洋戦争が勃発し日本が危機に瀕した時期、当時の青年学徒は憂国の至情やみがたく一斉に決起したのも、若き清純な情熱と日本民族としての真実の魂にほかならなかったのです。

当時の海軍飛行予備学生とは、昭和 9 年に制定された旧制大学、旧制高等専門学校卒業の志願者の中から海軍飛行将校を選抜採用した制度でした。小澤さん達の第 13 期生は約 5,000 名で、

昭和 18 年秋に土浦、三重の両海軍航空隊に入隊された。小澤さんは大津空（以下航空隊を空と表記）での約 4 ヶ月間の基礎教育教程を経て、次に中練教程の水上練習機操縦訓練部隊の北浦空に進まれた。ここで約 4 ヶ月の操縦訓練教程の修了式当日、各分隊から 1 機ずつの代表機による修業飛行に小澤さんと東大出身の学友が選ばれ、全員の目の前で正確な操縦をしたことを、鮮明に記憶されておられました。

昭和 20 年 4 月中旬、本格的空戦部隊で実力本位の戦闘機隊に選抜配備され、搭乗機の最新鋭零戦 52 丙型機と共に、勇躍前進基地の鹿児島国分基地に着いた。ここから九州・沖縄周辺の敵機動部隊撃滅、沖縄制空攻撃、特攻機護衛作戦等に参加、その後横須賀基地本隊、木更津の特攻隊で本土決戦に備えた。然し間もなく昭和 20 年 8 月 15 日の終戦となった。

木更津空で天皇陛下の「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」との終戦に関するラジオ放送を拝聴、やがて周囲が騒然となったところで、上層部から「この航空隊は前進基地徳島に進出し、機を見て敵機動部隊を攻撃せよ」との命令が下された。翌 16 日早朝出発、国鉄列車と宇高連絡船で 17 日夕刻、徳島基地に着いた。ここで司令から、天皇陛下のご意志により各人は直ちに故郷へ帰り身体を大切に祖国の再建のため尽力するよう、涙ながらの訓辞を受けた。

帰郷には陸路より何とかして郷土訪問飛行をし、パイロットとしての青春に決別したいと考えていた。只ここには必要な零戦はなく、配備されていた偵察員訓練の練習機で愛知県の岡崎空に行った。然しここでも適当な飛行機が無く、19 日石川県小松空に飛んだ。小松空には沖縄作戦で搭乗した零戦の同型機が多数あった。その 1 機を青森県三沢空まで借用、途中、郷里盛岡の我が家上空で念願の航空ページェントを計画して、午後 1 時頃小松空を飛びたった。

飛行途中、雷雲もある悪天候に遭遇し、苦心しながら故郷盛岡の我が家上空に到達して念願のページェントを実行した。途中飛行機エンジンの突然停止に見舞われ、急遽思い出の観武ヶ原陸軍練兵場に向かった。然しここは障害物があり着陸不可能と判断、咄嗟に盛岡市南部の北上川に着水を決意、その地点に到達した時、エ

ンジンが本調子でないまでも突如始動した。そこで今度は北上の後藤野陸軍飛行場を思い出し、漸く滑走路が良い状態でなかったが何とか無事着陸出来た。ここで飛行機を整備してもらい翌 20 日朝三沢空へ飛んだ。今度は天候雲厚く、漸く八甲田山の山腹を滑るように雲の下に出て三沢空に着陸した。三沢空の飛行長が偶然、土浦空時代の直属上官で、思いがけず深夜まで歓談した。かくして翌 21 日早朝、列車で郷里盛岡の母の待つ我が家に無事帰った。

帰郷して戦後の戦いが始まった。職場の日本発送電(株)盛岡地区電力所に復帰して働いていたが、この職場に、突如として労働組合結成の動きがあった。そして昭和 21 年 10 月に至り、有名な「電産 10 闘争」が開始された。小澤さんはストライキの要因を理系的考察で整理され、自から理論を確立し、ストライキ扇動者・実行者に「この闘争に断固反対する」と意志表示をし活動されている。

戦後の小澤さんは

- 1、沖縄航空戦において特攻機の護衛戦闘機隊員として出発し、その任務の為に生き残ったことの心の重荷
- 2、終戦直後の混乱期に勤務する電力会社で直面した労働運動指導者たちの主張等に対する反論
- 3、終戦以来の毎年の労働抗争による非常に無理を重ねながら発展してきた日本経済の将来を憂慮され、その対立抗争の風潮の激化を阻止して、従来の弊風を改め、和衷協力、寛容の精神で、今こそ累積した諸問題を冷静にしなければの思い

以上のことを念頭におかれた生活でした。

又、小澤さんの専門的な学術上及び経験上の発想から、種々の特許を取得されております。

このように、正に日本復興へ生涯をかけた大層意義のある人生でした。何よりも私共の科会並びに同窓生に、格別のご厚情を賜り有難うございました。心よりご冥福をお祈り致します。

## 池田俊夫先生を偲んで



### 池田俊夫先生ご略歴

|            |                             |
|------------|-----------------------------|
| 昭和 6 年 4 月 | 水沢市で生誕                      |
| 23 年 3 月   | 県立一関中学（旧制）修了                |
| 24 年 3 月   | 官立弘前高等学校理科（旧制）1 年修了         |
| 24 年 6 月   | 東北大学理学部（新制）入学               |
| 28 年 3 月   | 同学部物理学学科卒業                  |
| 28 年 4 月   | 東北大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程入学     |
| 30 年 3 月   | 同課程修了                       |
| 30 年 4 月   | 同専攻博士課程進学                   |
| 32 年 4 月   | 同課程中途退学                     |
| 32 年 4 月   | 東北大学科学計測研究所助手に採用            |
| 35 年 6 月   | 東北大学工学部電子工学科に配置替え           |
| 38 年 4 月   | 同学部助教授                      |
| 51 年 5 月   | 同学部教授、電子物理学講座担当             |
| 51 年 8 月   | 岩手大学工学部電子工学科に配置替え、電子基礎学講座担当 |
| 平成 7 年 4 月 | 国立一関工業高等専門学校長に配置替え          |
| 12 年 3 月   | 同校定年退職                      |
| 13 年 4 月   | 岩手県立産業技術短期大学校長に採用           |
| 15 年 3 月   | 同校定年退職                      |
| 22 年 12 月  | 逝去                          |

## 池田俊夫先生を偲んで

馬 場 守

本日ここに、池田俊夫先生のご霊前に謹んで告別の言葉を申し上げます。

池田先生、今朝は、先生の死を悼むかのように 12 月にはめずらしい雨がそば降っています。先生が最初の不調を感じられたのは 6 年前とお聞きしました。それから、次第に歩行が困難になり、会話や食事にも支障をきたすようになり、今年に入ってから、胃に直接つないだパイプを通して栄養を補給するまでに至りました。その間、先生は卒業生や近しい知人に、年

賀状やメールでご自身の体調の変化を客観的にかつ簡潔にお知らせ下さいました。私どもはただただ心配するとともに、先生のその勇氣ある姿勢に逆に元気づけられ、正に科学者の原点を視る思いでした。その間ご家族、とくに奥様の献身的な介護がいかばかりであったか察するに余りあります。先生は最後の 2 日間をご自宅でご家族の皆様にお過ごしになったとお聞きしました。私には、家族の皆様への先生の感謝と労わりの心がそのような奇跡的な、かけ

がえのない一時を引き寄せたと思えてなりません。

先生は研究者でありそして優れた教育者でした。健康な時もまたそうでない時も、先生の慈愛に満ちた眼差しが曇ることは一時もありませんでした。その眼差しは常に回りの人々や自然に注がれていました。人々への眼差しという点では、今から40年以上も前になりますが、私が東北大学で吉田重知先生と池田俊夫先生が担当されていた電子物理学講座に4年生で配属された当時は、今ほど計測機器や分析装置が潤沢にあったわけではありませんが、そんな卒業研究の指導の中で、「研究は対象を客観化して写し取ることから始まる」と言われ、実験サンプルの写真を撮り、そのフィルムの現像と定着そして焼き付け作業を、まるで街の写真屋さんのような暗室の中で手取り足とり教えていただきました。オレンジ色の仄暗い光に照らし出された先生の後ろ姿は、今、手を伸ばせば届きそうなほどに鮮明に覚えております。今の時代、子弟間の希薄な結び付きが、教師と学生そして時代にその責任の3分の一づつが帰せられるとはいえ、当時の先生と学生との一体感は、掛け替えのない財産でした。

また、自然への眼差しという点では、先生の趣味の一つにカメラがありました。とくに、先生のご自宅の庭に咲き乱れる花々の写真は美的にも見事ですが、同時に、一輪の花が何通りもの表情を持っており、天候や時の移ろいで千変万化する様も写し撮られました。そこには、花の美しさに限りがないように、自然、あるいは

自然現象の中に秘められた可能性も無限であるということを写真を通して主張されていたように私には思えます。

先生はこのような教育研究に対する真摯な姿勢を貫いて、東北大学の約20年間で幾多の人材を世に送り出し、その後移った岩手大学の約20年間、さらには一関工業高等専門学校と岩手県立産業技術短期大学の校長として、東北地区における高度技術者及び産業技術人材の育成にご尽力されました。その功績が高く評価され、2006年秋の叙勲では、瑞宝中授章を授章し、また最近では、日本を代表する学会の一つである、応用物理学会の第2回東北支部貢献賞を授与されました。

私は幸いにも、東北大学で7年あまり先生のご指導を受け、岩手大学池田研究室では、20年近く先生とご一緒に学生を指導する機会に恵まれました。その後の一関高専と県立産業技術短大へは相伴することはできませんでしたが、お亡くなりになる直前まで、やり取りさせて頂いた50通にもなる手紙と電子メールを加えて、今となってはどれもこれも私の大切な財産となりました。

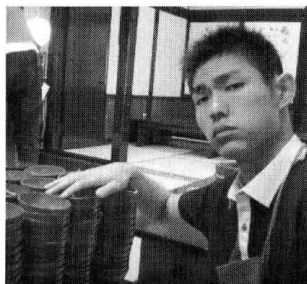
最後に、池田俊夫先生のこれまでのご指導に改めて感謝申し上げ、謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りしてお別れの言葉といたします。

(東北大学吉田研究室同窓会および岩手大学池田研究室を代表して 平成22年12月20日弔辞としてよまれたものです)

## 第7回（平成21年度）草刈賞受賞者

### 《電気電子工学科》

#### 「不安を糧に挑戦したい」



電気電子工学科 石 浦 理

賞というものを頂き慣れていない私が草刈賞の受賞を知った時、非常に淡々とその報告を受け取った記憶があります。急な報告でしたし、慣れない「受賞」という言葉や、なんといっても成績は並で学会での発表なども無い私が受賞したと言われても「私で良いんですか？」と疑問を持たざるを得ませんでした。長い間、スポーツに携わってきた私からすると「賞」とは結果を出した証であり、何かしらのゴールであると考えていました。その結果が伴ったうえでの受賞だとは自分自身で思えなかった為に、「賞」を頂いたはずなのに達成感が無く、少し不安になった事も事実で

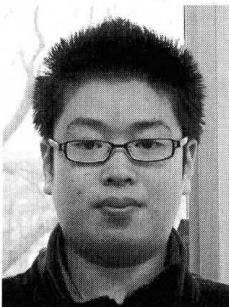
す。そんな状態で授賞式を迎えたのですが、そこで私の考えは一変します。

授賞式にはたくさんの大学OBの方が参列されており、食事も交えて様々な方とお話する事ができました。その中で受賞の経緯を褒めて頂く事は稀でして、受賞者としてこれからの活躍を期待しているとの言葉を多く頂きました。「草刈賞＝期待の表れ」だと思えるようになりますと以前の不安はエネルギーへと変わっていきます。期待に応えるべく、これから社会人として頑張っていかなければと思うようになりました。

その後、社会人となりそろそろ1年が経とうとしています。まだまだ私は結果を残し、偉業を達成するといった事はできそうにありません。しかし、これからも意欲的に様々なことへチャレンジをしていく事でそのきっかけを掴んでいきたいと思っています。

### 《情報システム工学科》

#### 「草刈賞を受賞して」



情報システム工学科 川 上 勝 也

受賞して、はや一年が過ぎ去ろうとしています。

私は、伝統ある草刈賞を頂いたことに大変感激しています。

今思えば、5年前岩手大学に入学した時にまさか自分がこんな賞をもらえるとは

は思ってもいませんでした。

受賞理由である新入生歓迎会実行委員会は自ら志願しました。周囲の友人の手を借りながらも、歓迎会を成功させました。このことを通して私は物事を進めていくためには、自分も頑張ることはもちろんのこと、周囲の助けが必ず必要であることを身に染みて感じました。助けてくださった友人にこの場を借りてお礼申し上げます。

将来は人事に携わることをしたいと思っていますので、このことは本当に貴重な体験となりました。

現在は大学院に進学し、研究や勉学に勤しんでおります。大学院の授業は大変深い内容をそれぞれの分野の教授の方々たちが熱弁をふるってくださるので、毎日私自身非常に楽しく授業を受けさせてもらっております。

本大学の情報システム工学科における進学率は50%を切っています。大変悲しい実情だと私は思います。

これから大学を目指す工学部情報システム工学科の後輩たちにはぜひ、進学を目指してもらいたいと思います。

## 「草刈賞を受賞して」

情報システム工学科 工 藤 舞衣子



草刈賞を受賞して、早いもので1年が経とうとしております。私は岩手大学大学院へ進学し、勉強に、研究に忙しい日々を送っています。

受賞のきっかけのひとつとなりました研究活動の面では、さらに改良を行い、今年1年で国内外の学会で1度ずつ発表させていただきました。学会では同じ手法を用いている先生とも出会う機会が多く、この手法でこんなこともできるのか、と刺激を受けることも多くあります。自分の研究のヒントになるものはないかと、考える機会にもなり、充実したものになりました。これからも学会に参加する機会があると思いますので、そのたびにさまざまなことを吸収してい

きたいです。

現在は大学院の後期課程に進むために研究を進めたり、ジャーナル論文を応募しようと、論文を書くための実験などを行っております。私はコンピュータビジョンという分野の、動画像を取り扱っているため、日々実験結果の画像とにらめっこし、少しずつではありますが改良方法を探っております。受賞した去年はまだ研究も初期段階で、右も左もわからず手探り状態の私でしたが、1年が経ち、研究が進むにつれて、研究とともに自分自身も成長できていればと思います。

最後になりましたが、草刈賞受賞にあたり、今までお世話になった先生方、両親、友人に感謝し、これからも研究に励んでいきたいと思っております。

## 草刈賞充実のためのご寄付歓迎

草刈賞授与の予定期間は、平成16年度から約10年間でした。

佐藤淳先生のご寄付等により、当初計画が延長できておりますが、いずれ原資が無くなりますので、鋭意検討の結果、経常費の積み立てにより平成40年度までの継続を決定いたしました。

しかしながら、経常費が科会基金を取り崩している現状です。その中で草刈賞継続を支えるために、会員各位の年会費納入をお願いいたします。

さらに、草刈賞に対する自発的なご寄付を大歓迎いたします。

本年度、太田原 功 様（昭和30年電気卒・草刈賞委員会委員長）

草刈ファミリー（代表 岡本康之様（草刈先生ご子息、昭和38年電気卒））

の皆さまより、多大なご寄付を頂戴いたしました。

心より感謝申し上げます。

## 《支部だより》

# 平成 22 年度東京支部報告

東京支部長 澤 藤 隆 一（昭和 47 年電気卒）

東京支部の活動はホームページに詳しく載せております。インターネット検索エンジンで IUEEITOKYO と入力しますと出てきます。

2009 年はリーマンショック後の世界同時不況、2010 年にやっと経済も立直り出しましたが、この間に会員の皆様の環境には様々な変化があったようです。4 月 24 日（土）に学年幹事会を行い、8 月 28 日（土）の久保田賢二先生のセミナーは 69 名参加の盛況、10 月 23 日（土）の東京支部大会は 42 名参加、斉藤弘先生の講演、柏葉会長、一祐会派遣の旗福理事（盛岡支部長）と、往年の先生方にご来臨頂きました。澤藤も支部長として 7 年目に入り交代時期ですが、山内利明副支部長（S55 電気）が大阪に転勤となり、今大会で新たな役員として副支部長に在家宏氏（S52 電子）の就任が承認されました。久保田先生のセミナーと支部大会の間が 2 ヶ月も無く、ややイベント疲れの感もありましたが、前年の反省で役員が懸命に取り組んだ結果です。さすがに工専卒の方々のご参加は無くなってまいりました。

学生の減少、国立大学法人への予算カットで大学運営が年々困難になってくる中、大学の評価の一要素が同窓会活動の活発性に求められております。我等が科会は一祐会より前に創設され、長い歴史を刻んできました。平成 24 年 1 月 1 日で 70 周年なので、本部からの要請で、およそ 2 ヶ月早い本年 10 月 29 日に 70 周年祝賀会を東京の「アルカディア市ヶ谷」で行います。70 年の長い間脈々と大学及び科会活動を支えて来てくれた諸先輩に感謝する意味で、寺井実行委員長のもと、たくさんの会員の参加を呼びかけて参ります。

大学法人化後予算削減で産学官連携や地域連携を図らなければならない、一方で環境問題へも取り組まなければならないという難しい課題を抱えた岩手大学は、見事にそれらの課題に対処



平成 21 年支部大会で澤藤支部長（左）と山田副支部長

しており、同窓会としても全面的にこれに協力して行かなければならないと考えます。大学が連携している盛岡市や盛岡広域 8 市町村のイベント等をホームページで紹介し、澤藤が会長を務める「在京盛岡広域産業人会」の活動も積極的に行いました。また一祐会傘下の東京地区の 3 支部（東京金属物性科会、東機関、きたかみ会）とは相互に来賓交流しており、その総会の模様をホームページで紹介しております。岩手大学が関東で行う「新技術説明会」や展示会等のイベントを紹介し参加しました。平成 22 年度は支部役員会を 7 回も行いました。東京支部では飲食を伴う会費についてはすべて支部役員の自己負担としており、役員の皆様には毎度ご苦勞様です。役員派遣として、新会員歓迎会に狩野副支部長、一祐会総会には山田副支部長、理事会には順次澤藤支部長、柴田副支部長、寺井会計監査、科会総会では澤藤支部長が講演、他会総会には菊地会計、在家副支部長、澤藤支部長、柴田副支部長という形で分担出席しました。仙台での卒業生・修了生と学長との懇談会には柴田副支部長が自費参加して内容紹介頂きました。

## 平成 22 年度仙台支部報告

仙台支部総会が平成 22 年 6 月 26 日(土)15 時からハーネル仙台に於いて開催されました。

総会は、本部の柏葉会長並びに恒川電気電子・情報システム工学科教授を迎え、支部会員 29 名の出席により開会しました。齋藤支部長(平成 21 年度役員)の挨拶の後、第 1 号議案「事業報告並びに事業計画」、第 2 号議案「会計報告および監査報告並びに平成 22 年度予算」及び第 3 号議案「役員改選」について審議され、これらが承認されました。

平成 22 年度の支部新役員は以下のとおりです。(敬称略)

支部長 佐々木良治 (S43 電気)

副支部長 千葉浩克 (S40 電気)

副支部長 数藤崇 (S52 電気)

監事 横井哲夫 (S43 電気)

監事 金田博臣 (S45 電気)

総会に引き続き、鈴木輝顕氏(日本原燃㈱副社長、S42 電気)より「地球環境とエネルギー

仙台支部長 佐々木 良 治(昭和 43 年電気卒)

セキュリティ」と題して、地球温暖化防止における原子力の役割などについて講義を頂きました。

その後、恒例の出席者全員の写真撮影を行い、懇親会に移りました。

懇親会では、冒頭に学生歌を唱和し、乾杯の後、1 年ぶりやら数年ぶりやら久しぶりに顔を遇わせた面々が、青春時代を懐かしんだり、岩手大学の昔と今について語ったり、夫々の近況について語り合ったり、さまざまな話に花を咲かせていました。最後に全員で輪になって肩を組みながら同胞寮歌を唱和し、一年後の再会を約束し、惜しみながら別れました。

仙台支部では、会員相互の情報交換の目的でホームページを開設しております。今後、内容を充実させていく予定です。

(<http://iueeisendail.web.infoseek.co.jp/index.html>)



平成 22 年度 岩手大学電気電子情報科会 仙台支部総会

平成 22 年 6 月 26 日 ハーネル仙台

## 平成 22 年度盛岡支部報告

本科会の会員は、一祐会の名簿によれば盛岡市とその周辺に 250 名ぐらいいろと思われすが総会、新入会員歓迎会、新年会等の行事の際に参加あるいは返事を下さる方は 40 ～ 50 名です。特に 20 歳代から 40 歳代の方々は実際に居住しているかどうかの確認が取れません。そこで、学科、年次の幹事さん方には同級生の勤務先、住所等の把握をお願い致します。

さて、平成 23 年度電気電子情報科会の新年会が下記のように行われ 20 名の参加者がありました。インフルエンザで欠席が 3 名もありました。

日 時：平成 23 年 1 月 22 日（土）

午後 3 時 30 分より

会 場：いわて国保会館 盛岡市大沢川原

会 費：4000 円

当日は午後 1 時より本部の理事会と 70 周年記念祝賀会実行委員会が行われ、東京、仙台からの役員の方々も参加されました。

司会進行は支部長の旗福が担当し、柏葉先生

盛岡支部長 旗 福 寛（昭和 38 年電気卒）

の会長挨拶に続き乾杯は出席者最年長で元会長の山崎時男（S24 卒）さんをお願いしました。

歓談のなかではまず、70 周年記念祝賀会実行委員長で前東京支部長の寺井正行さん（S41 年卒）から 70 周年記念祝賀会の概要と経過のお話があり、盛岡からも多数の出席のお誘いがありました。次に、仙台支部から新支部長佐々木良治さん（S43 年卒）から生まれ故郷、鉾田町のお話をいただきました。現役最古参の岩手日報宮手敏雄さん（S44 年卒）からは電子メディアとの競合で最近の新聞発行の難しさ、具体的には夕刊廃止の経緯と廃止後の混乱についてのお話がありました。最後に本科会理事の柳橋好子さん（S45 年子卒）から、勤めていた婦人団体の事務局長を引いたので、ついでに科会事務局も後継者を探してほしいと話しが出て、皆さんに反対されました。

中締めは受付を手伝って頂いた長田研究室の学生さん飯田悠人君をお願いしました。

以上



山崎元会長の音頭で“乾杯”



東京から参加の70周年祝賀会実行委員長 寺井さん



貴重な若者 3 人



司会進行 絶好調

## 平成 22 年度電気電子情報科会総会

平成 22 年度総会は、平成 22 年 6 月 12 日(土)、盛岡市いわて国保会館において 26 人の出席で開催されました。

長田洋理事の司会で始まり、柏葉安兵衛会長のあいさつに続き、電気電子工学科藤原民也教授からお祝辞を頂戴しました。

議長は、前盛岡支部長の歳弘健理事、書記に木村彰男理事と及川二千朗会計監査が選任され、ほぼ原案通り承認、可決されました。

第 6 号議案の「会則の改定について」では、全体的に表現を統一し、現代仮名遣いに改めることを、携わっていただいた柴田東京副支部長が説明しました。

また、科会が 1941 年 1 月 1 日に設立され、2012 年 1 月 1 日で 70 年になることから、平成 22 年度事業として「科会 70 周年記念事業」の実行委員会を設置して進めることが決まりました。

続いて東京支部長の澤藤隆一氏（電気 47 年卒）による「東京からみた岩手」の講演に入りました。在京盛岡広域産業人会代表でもある澤藤氏の講演は、岩手の今と、これからを示唆する意義深く幅広い内容でした。

その後の懇親会は、受付を手伝ってくれた院生たちも加わって、和やかな交流が繰り広げられました。



平成22年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成22年6月12日 盛岡・いわて国保会館

# 平成 22 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日 時：平成 22 年 6 月 12 日 (土)

15:00～16:10

場 所：いわて国保会館

議 長：歳弘 健 (理事)

書 記：及川二千朗 (会計監査)

木村 彰男 (事務局)

## ・第 1 号議案、第 2 号議案

事務局より平成 21 年度事業 4 件 (きたかみ 56 号発行、正会員歓迎会、草刈賞選考、会費検討委員会設置) についての概要報告があり、それに関連して平成 21 年度の決算報告が行われた。続いて久保田会計監査より監査報告が行われ、特に異議なく、承認された。

## ・第 3 号議案、第 4 号議案

はじめに、平成 22 年度事業計画に関連して、各担当から以下の説明がなされた。

- [事務局より] きたかみ 57 号は例年通り発行するが、故小沢相談役の追悼記事を掲載予定であること。また、正会員歓迎会は例年通り開催すること。

- [草刈賞委員会委員長より] 草刈賞については例年通り選考を行うが、今後安定運営のために、今年度から新に草刈賞資金としての積立を開始すること。

- [会長より] 会費検討委員会が取り纏めた平成 6 年度以降の基金残高／年会費徴収状況の推移データが提示され、依然として科会の財政状況が厳しいこと、また、今後これらのデータを元に会費検討委員会として会費納入率向上のための方策を議論していくこと。

- [会長より] 平成 24 年 1 月で科会が 70 周年を迎えることから、記念事業を行ってはどうか。

引き続いて、事務局より、上記事業計画を勘案した平成 22 年度予算案について説明がなされ、特に草刈賞資金のための特別会計新設について提案があった。議長からは、70 周年記念事業については「その他議案」で改めて取り扱うので、それ以外の事案についてのみ審議することが述べられた。特に異議なく、承認された。

## ・第 5 号議案

事務局より、平成 22 年度科会役員名簿につ

いて以下の説明がなされた。

- 故小沢相談役を名簿から削除

- それ以外は全員留任

その後、東京支部長より、東京支部の佐川幹事が寺井幹事の誤り (事務局側の記載ミス) であることが指摘され、それを修正した上で承認された。

## ・第 6 号議案

東京支部の柴田副支部長より、以下のような内容で会則を改訂するという提案がなされた。

- 表現の統一、現代仮名遣いに直す、役員任期 1 年→2 年、「配布」→「配付」。

また、今回は字句等に関する事項の修正ばかりであるが、今後は「内容」についても議論を進めていきたい、との意志表示があった。さらに事務局からは、任期 2 年に改定することに伴い、17 条の「毎年」という文言を削除することも追加で説明された。

字句等の修正については特に異議なく承認されたが、会則の内容に関して議論を進めることに対しては、全学同窓会連合の現状も鑑み、慎重に議論を進めた方がよいという意見も出され、会長からは「新年度の理事会で検討していきたい」旨の回答がなされた。

## ・その他議案

会長より、70 周年記念事業について細かい説明・提案がなされた。

- 理事会の意向としては何らかの記念事業を行うつもりである。

- 一祐会の 70 周年も重なるので、開催時期は少しずらしたい。

(例えば平成 23 年度総会にあわせて実施する、など)

- できるだけ多くの会員に参加してもらえよう、場所は東京にしたい。

- 「きたかみ」で特集号を発行したい。

続いて、東京支部での総会開催は問題ない、やるなら卒業生に講演してもらいたい、などの意見交換がなされ、最終的には科会として何らかの記念事業を行うことで承認された。なお、細かい話については、実行委員会を立ち上げてそちらで検討する、という形で合意を得た。

以上

# 平成 22 年度電気電子情報科会役員名簿

(平成 23 年 1 月 1 日現在)

| 役 職 名     | 氏 名     | 卒業 (卒回)     | 役 職 名 | 氏 名     | 卒業 (卒回)     |
|-----------|---------|-------------|-------|---------|-------------|
| 会 長       | 柏 葉 安兵衛 | S 38 (気 11) | 東京支部  |         |             |
| 副 会 長     | 南 幅 留 男 | 45 (子 1)    | 幹 事   | 柴 田 隆 昭 | S 37 (気 10) |
| 副 会 長     | 千 葉 則 茂 | 50 (気 23)   | 幹 事   | 飛 世 政 和 | 44 (気 17)   |
| 副 会 長     | 鳥谷部 達 雄 | 56 (情 3)    | 幹 事   | 山 田 均   | 47 (気 20)   |
| 理 事       | 小野寺 瑞 穂 | 29 (気 2)    | 幹 事   | 小 林 秀 雄 | 47 (子 3)    |
| 理 事       | 歳 弘 健   | 33 (気 6)    | 幹 事   | 在 家 宏   | 52 (子 8)    |
| 理 事       | 井 上 隆 志 | 40 (気 13)   | 幹 事   | 寺 井 正 行 | 41 (気 14)   |
| 理 事       | 田 山 典 男 | 41 (気 14)   | 幹 事   | 山 内 利 明 | 55 (気 28)   |
| 理 事       | 立 花 龍 一 | 61 (情 8)    | 幹 事   | 菊 地 紀 幸 | 61 (子 17)   |
| 理 事・事務局   | 柳 橋 好 子 | 45 (子 1)    | 幹 事   | 狩 野 利 之 | 61 (子 17)   |
| 理 事・事務局   | 長 田 洋   | 62 (気 35)   | 幹 事   | 加 瀬 貞 二 | H 4 (子 23)  |
| 理 事・事務局   | 木 村 彰 男 | H 3 (情 13)  | 盛岡支部  |         |             |
| 理事・盛岡支部長  | 簀 福 寛   | 38 (気 11)   | 幹 事   | 宮 手 敏 雄 | 44 (気 17)   |
| 理事・東京支部長  | 澤 藤 隆 一 | 47 (気 20)   | 幹 事   | 菊 池 政 四 | 47 (気 20)   |
| 理事・仙台支部長  | 佐々木 良 治 | 43 (気 16)   | 幹 事   | 岡 英 夫   | 48 (子院 4)   |
| 会 計 監 査   | 及 川 二千朗 | 38 (気 11)   | 幹 事   | 杉 村 洋 一 | 49 (子 5)    |
| 会 計 監 査   | 久保田 賢 二 | 42 (気 15)   | 幹 事   | 池 内 達   | 50 (子 6)    |
| 顧 問       | 佐 藤 淳   | 特           | 幹 事   | 佐 藤 信   | 57 (子 13)   |
| 顧 問       | 志 田 純 一 | 特           | 幹 事   | 佐 藤 文 昭 | 59 (子 15)   |
| 顧 問       | 佐々木 經 夫 | 特           | 幹 事   | 泉 澤 栄   | 60 (子 16)   |
| 相談役 (元会長) | 阿 部 源 祐 | 16 (専 1)    | 幹 事   | 高 橋 康 浩 | 62 (気 35)   |
| 相談役 (元会長) | 佐 藤 源 美 | 17 (専 2)    | 幹 事   | 佐々木 正 嗣 | 62 (子 18)   |
| 相談役 (元会長) | 高 木 三 郎 | 17 (専 2)    | 仙台支部  |         |             |
| 相談役 (元会長) | 岡 田 整 八 | 18 (専 3)    | 幹 事   | 小 原 四 郎 | 37 (気 10)   |
| 相談役 (元会長) | 阿 部 長 一 | 19 (専 4)    | 幹 事   | 板 澤 正 登 | 47 (子 3)    |
| 相談役 (元会長) | 太田原 功   | 30 (気 3)    | 幹 事   | 田 代 良 二 | 55 (気 28)   |
| 相談役 (元会長) | 佐々木 喜八郎 | 28 (気 1)    | 幹 事   | 佐 藤 雄一郎 | H 3 (気 39)  |
|           |         |             | 幹 事   | 柏 葉 安 宏 | H 9 (電電 2)  |

# 平成 22 年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿

平成 23 年 1 月 1 日現在

| 電気電子工学コース<br>(コース長 恒川佳隆 教授) |                              |                                                                                                   | 情報システム工学コース<br>(コース長 安倍正人 教授) |                                      |                                                                                       |
|-----------------------------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 分野                          | 職 名                          | 氏 名                                                                                               | 分野                            | 職 名                                  | 氏 名                                                                                   |
| 電子デバイス工学                    | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教 | 守宏<br>○ 宏夫<br>茅治<br>一郎<br>彬司<br>英数<br>政宏<br>榮真<br>場口<br>館川<br>林<br>馬谷<br>岡西<br>向小<br>叶<br>田野<br>崎 | コンピュータ・ネットワーク工学               | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教         | 人昭<br>幸史<br>司太<br>信<br>正泰<br>正仁<br>貴豊<br>倍谷<br>木田<br>山岡<br>藤<br>安西<br>鈴木<br>永平<br>藤佐  |
| 電子システム工学                    | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教 | 隆洋<br>洋樹<br>明<br>佳真<br>尚宏<br>川田<br>坊間<br>藤<br>恒長<br>大本<br>佐                                       | 知能情報処理システム工学                  | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教         | 志清<br>二久<br>憲男<br>忻<br>孝讓<br>彰<br>邊山<br>輪森<br>岩村<br>渡西<br>三吉<br>兼木<br>盧               |
| 電気エネルギー工学                   | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教 | 也弘<br>一也<br>貴<br>民浩<br>晋和<br>原田<br>木田<br>橋<br>藤山<br>高成<br>高                                       | メディアシステム工学                    | 教授<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>助教<br>事務補佐 | 司茂<br>市博<br>也司<br>裕則<br>晃忠<br>卓直<br>ひかる<br>井葉<br>野本<br>石谷<br>田<br>厚千<br>今藤<br>明中<br>懸 |

○ 23 年 3 月ご退職予定

| 技 術 部                                                                             |                                                                                                                              |                                                             |                                                    |                                                                                         |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 工学系技術室                                                                            | 職 名                                                                                                                          | 氏 名                                                         | 情報技術室                                              | 職 名                                                                                     | 氏 名 |
| 技術専門員<br>技術専門員<br>技術専門員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術補佐 | 樹治<br>博徳<br>里香<br>寿え<br>寛<br>寿雄<br>茂康<br>徳勝<br>由香<br>こず<br>重<br>葉田<br>須川<br>原<br>葉司<br>田葉<br>沼<br>千太<br>那星<br>萩千<br>庄志<br>千藤 | 志明<br>士徹<br>平<br>英宏<br>哲浩<br>部田<br>野頭<br>上<br>阿栗<br>金田<br>村 | 長員<br>員員<br>員員<br>員員<br>員員<br>員員<br>員員<br>員員<br>員員 | 副技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員<br>技術専門職員 |     |

# 平成 22 年 年表

|         |                                                                                                                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1/7     | 「きたかみ」56号編集委員会・平成21年度新年会打ち合わせ 会長・事務局・太田原相談役・旗福盛岡支部長・歳弘理事 岩手大学工学部                                                                                         |
| 1/16-17 | 大学入試センター試験                                                                                                                                               |
| 1/22    | 電気電子工学科特別講義, 「循環型社会形成のための環境、資源、エネルギーからみたりサイクル」 藤田豊久氏 (東京大学教授)                                                                                            |
| 1/23    | 科会21年度第3回理事会 21年度事業について等 13人 いわて国保会館<br>盛岡支部・科会新年懇親会 21年3月退職の先生への慰労・感謝の会 21人 いわて国保会館                                                                     |
| 1/23    | 草刈賞委員会 (選考委員会)<br>選考委員 電気電子工学科: 藤原民也 (電気電子工学コース長)・成田晋也 (学生委員)<br>情報システム工学科: 安倍正人 (情報システム工学コース長)・鈴木正幸 (教務委員)<br>電気電子情報科会: 柏葉安兵衛 (会長)・太田原功 (相談役・委員長)       |
| 1/29    | 電気電子工学科特別講義, 「通信の高信頼化を支える雷防護技術と国際標準化動向」 佐藤秀隆氏 (NTTファシリティーズ 研究開発本部部門長)                                                                                    |
| 2/2-3   | 平成22年度博士前期課程第2次入試. 電気電子・情報システム工学専攻7名合格                                                                                                                   |
| 2/3     | 入学願書受付締切. 電気電子・情報システム工学科: 前期1.6倍, 後期2.9倍                                                                                                                 |
| 2/10    | 「きたかみ」編集委員会 校正その他 会長・事務局3人 岩手大学工学部                                                                                                                       |
| 2/17    | 電気電子工学専攻修士論文審査会                                                                                                                                          |
| 2/19    | 情報システム工学科卒業論文発表会                                                                                                                                         |
| 2/22    | 情報システム工学専攻修士論文審査会                                                                                                                                        |
| 2/23    | 電子情報工学専攻博士論文審査会 (情報システム工学講座所属2名分)                                                                                                                        |
| 2/23    | 「きたかみ」編集委員会 校正その他 会長・事務局3人 岩手大学工学部                                                                                                                       |
| 2/23    | 新正会員歓迎会打ち合わせ 岩手大学工学部                                                                                                                                     |
| 2/25    | 平成22年度個別学力検査前期日程. 電気電子・情報システム工学科86名合格                                                                                                                    |
| 3/1     | 「きたかみ」56号発行 5300部                                                                                                                                        |
| 3/2     | 電気電子工学科卒業研究発表会                                                                                                                                           |
| 3/8     | 新正会員歓迎会 岩手大学工学部生協食堂 参加60人 新正会員・院生38人                                                                                                                     |
| 3/12    | 平成22年度個別学力検査後期日程. 電気電子・情報システム工学科15名合格                                                                                                                    |
| 3/23    | 岩手大学卒業式 (岩手県民会館)<br>工学部第58回卒業生: 電気電子工学科70名, 情報システム工学科61名<br>大学院博士前期課程第41回修了生: 電気電子工学専攻22名, 情報システム工学専攻21名<br>大学院博士後期課程第12回修了生: 電子情報工学専攻3名                 |
| 4/7     | 岩手大学入学式 (岩手県民会館)<br>工学部入学生: 電気電子・情報システム工学科125名<br>3年次編入学生: 電気電子工学科7名, 情報システム工学科1名<br>大学院博士前期課程入学生: 電気電子・情報システム工学専攻43名<br>大学院博士後期課程入学生: 電気電子・情報システム工学専攻なし |
| 4/24    | 齋藤徳美岩手大学理事退任講演会「大学での40年の想い」                                                                                                                              |
| 5/10    | 会費検討委員会打合せ 会長・南幅委員長・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                                         |
| 5月中     | 情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成22年9月修了予定者》および中間発表会《平成23年3月修了予定者》 (分野別に実施)                                                                                         |
| 5/24    | 科会会計監査 及川二千朗監事・久保田賢二監事・柏葉会長・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                                 |
| 5/27    | 会長事務局打合せ 理事会提案事項について 柏葉会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                         |
| 5/27-28 | 電気電子工学科スポーツ大会                                                                                                                                            |
| 5/30    | 計測自動制御学会東北支部第257回研究集会                                                                                                                                    |
| 5/30    | 平成22年度第1回理事会 22年度総会提案事項審議、会費検討委員会について、その他 13人 いわて国保会館                                                                                                    |
| 6/1     | 開学記念日                                                                                                                                                    |
| 6/1     | ものづくりEF特別講演会<br>「ハーフトロコイダルCVTの開発、イケ、マサツヲオソレズニ」 町田尚氏 (日本精工前副社長)                                                                                           |
| 6/3     | 平成23年度推薦編入学試験. 情報システム工学科2名合格                                                                                                                             |
| 6/12    | 平成22年度岩手大学電気電子情報科会総会 23人 いわて国保会館<br>平成21年度事業報告・決算報告、平成22年度事業計画・予算、会則の改定、科会70周年について等<br>講演「東京からみた岩手」 澤藤隆一東京支部長                                            |
| 6/12    | 平成22年度盛岡支部総会                                                                                                                                             |
| 6/16    | 電気電子工学科特別講義, 「Energy Balance, Power Balance and Efficiency」 Prof. Francis Dawson (University of Toronto)                                                 |
| 7/6-7   | 平成23年度一般編入学者選抜試験. 電気電子工学コース4名合格, 情報システム工学コース2名合格                                                                                                         |
| 7/9     | 平成23年度大学院博士前期課程推薦入学者選抜試験. 電気電子・情報システム工学専攻5名合格                                                                                                            |
| 7/12    | 会長事務局打合せ 理事会提案事項について 柏葉会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                         |

|           |                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/16      | 日本工学アカデミー北海道・東北地区講演会<br>講演①「工学部の目指すもの－ソフトパスエンジニアリング－」堺茂樹氏（岩手大学工学部長）<br>講演②「ゆりかごから墓場まで；電気とエネルギーが学べる環境づくり」高木浩一氏（岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科准教授）<br>講演③「岩手大学における航空エンジン・ロケットエンジン関連の研究」船崎健一氏（岩手大学工学部機械システム工学科教授）                         |
| 7/21      | 電子情報通信学会東北支部講演会<br>「生物の生存戦略と環世界－情報を作り上げた生物」針山孝彦氏（浜松医科大学医学部教授）                                                                                                                                                                 |
| 7/24      | 第2回理事会 22年度事業について、70周年記念事業について、その他 12人 いわて国保会館                                                                                                                                                                                |
| 8/5       | 情報システム工学コース スポーツ大会                                                                                                                                                                                                            |
| 8/6       | オープンキャンパス                                                                                                                                                                                                                     |
| 8/31      | 情報システム工学コース 原美オサマ助教がカタル大学に転出                                                                                                                                                                                                  |
| 8/31-9/1  | 平成23年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成23年4月入学》電気電子・情報システム工学専攻54名合格                                                                                                                                                                         |
| 9/4       | 第2回会費検討委員会 会長・鳥谷部委員長・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                                                                                                   |
| 9/15-17   | 電気電子工学科工場見学《関東地区》東芝 浜川崎工場, NTTドコモ R&Dセンタ, NTT横須賀研究開発センタ, フジクラ佐倉事業所, 引率：佐藤・長田教員（参加者30名）                                                                                                                                        |
| 9/16      | 文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（岩手県立水沢高等学校1年生約140名受け入れ）                                                                                                                                                                                  |
| 9/下-10/上  | 電気電子工学専攻修士論文中間審査                                                                                                                                                                                                              |
| 9/29      | 電気電子工学科工場見学《東北地区》（ユーラスエナジー釜石, 新日本製鐵釜石精錬所）. 引率：大坊教員（参加者44名）                                                                                                                                                                    |
| 9/30      | 平成22年度岩手大学修了式・卒業式（岩手大学農学部附属農業教育資料館）<br>大学院博士後期課程修了生：電子情報工学専攻2名                                                                                                                                                                |
| 10/1      | 兼岩憲氏を情報システム工学コース准教授に採用                                                                                                                                                                                                        |
| 10/23     | オープンキャンパス（大学祭）<br>第2回ホームカミングデー <a href="http://www.iwate-u.ac.jp/homecomingday/report2.shtml">http://www.iwate-u.ac.jp/homecomingday/report2.shtml</a>                                                                        |
| 11/5      | 電気電子工学科特別講義, 「電気電子情報技術は、これから黄金期へ」澤藤隆一氏（S47年電気卒, 三基計装代表取締役社長）                                                                                                                                                                  |
| 11/12     | 電気電子工学科特別講義, 「努力を惜しまずー常に一生懸命・就職活動にあたってー」池田隆夫氏（S35年電気卒, 富士通エフ・アイ・ピー前代表取締役社長）                                                                                                                                                   |
| 11月中      | 情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成23年3月修了予定者》および中間発表会《平成23年9月修了予定者》（分野別に実施）                                                                                                                                                               |
| 11/19     | 電気電子工学科特別講義, 「IT時代の製造業としての我社」齊藤新一氏（S49年電気卒, 大井電気代表取締役社長）                                                                                                                                                                      |
| 11/22     | 会長・事務局打合せ 理事会・70周年実行委員会について,<br>「きたかみ」編集委員会 会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学工学部                                                                                                                                                         |
| 11/25     | 平成23年度推薦入学試験 電気電子・情報システム工学科27名合格                                                                                                                                                                                              |
| 11/26     | 電気電子工学科特別講義, 「電力会社の仕事 30年の勤務を振り返って」川上公司氏（S55年電気卒, 北海道電力 名寄電力センター所長）                                                                                                                                                           |
| 11/26     | 平成22年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業「インテリジェントシステム先端技術セミナー」《盛岡広域地域産業活性化協議会, 財団法人いわて産業振興センター, 岩手大学, いわてインテリジェントシステム研究会共催》<br>招待講演①「高速な統計的学習アルゴリズムによる特徴抽出」福見稔氏（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授）<br>招待講演②「小さなネットワークロボットの大きな可能性」芳賀義典氏（株式会社バンダイナムコゲームス） |
| 11/27     | 第3回理事会 会費検討委員会・科会70周年実行委員会についてほか 14人 いわて国保会館                                                                                                                                                                                  |
| 11/27     | 科会70周年記念事業第1回実行委員会 事業内容について 14人 いわて国保会館                                                                                                                                                                                       |
| 11/27     | 第3回会費検討委員会 鳥谷部委員長・各支部長・事務局3人・会長 いわて国保会館                                                                                                                                                                                       |
| 12/1      | 電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）中間発表会                                                                                                                                                                                                |
| 12/9      | 岩手大学システム理工学系講演会<br>「フーリエ変換法とその応用－サブオングストローム格子歪計測からフェムト秒位相計測まで－」武田光夫氏（電気通信大学情報通信工学科教授）                                                                                                                                         |
| 12/13, 22 | 大学院博士後期課程学位論文予備審査会（電子応用工学講座）                                                                                                                                                                                                  |
| 12/14     | 電気電子工学科特別講義, 「環境技術への静電気応用：電気集塵技術」三坂俊明氏（日立プラントテクノロジー エネルギーシステム事業本部）                                                                                                                                                            |
| 12/17     | 岩手大学システム理工学系講演会<br>「ものづくりの思い」安部隆雄氏（ANテック代表, 東北リコーテクニカルアドバイザー）                                                                                                                                                                 |
| 12/15, 20 | 大学院博士後期課程学位論文予備審査会（情報システム工学講座）                                                                                                                                                                                                |
| 12/18     | 平成22年度第3回情報処理学会東北支部研究会                                                                                                                                                                                                        |
| 12/19     | 弔電 故池田俊夫先生                                                                                                                                                                                                                    |
| 12/20     | 故池田俊夫先生ご葬儀                                                                                                                                                                                                                    |
| 12/22     | 電気電子工学科特別講義, 「半導体デバイスの開発－CO <sub>2</sub> 削減に向けてー」新倉郁生氏（岩手大学客員教授, 元松下電子工業取締役）                                                                                                                                                  |

# 岩手大学電気電子情報科会会則

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、並びに岩手大学工学部電気系工学科及び大学院工学研究科電気系工学専攻の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学工学部電気系工学科に置く。  
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

## 第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気系工学科の現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気系工学科卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気系工学科の在校生並びに岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻学生のうち正会員でない者とする。

## 第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。  
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。  
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

## 第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。  
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。
- 第13条 総会は毎年1回会長がこれ招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認めた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

## 第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- |      |      |                                   |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長  | 1名   | 正会員より選出する。                        |
| 副会長  | 3名以内 | 正会員より選出する。                        |
| 理 事  |      | 正会員より互選する。<br>尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名   | 正会員より選出する。                        |
| 幹 事  |      | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。              |
| 顧 問  | 若干名  | 特別会員より会長がこれを委嘱する。                 |
| 相談役  |      | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。            |
- 第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。  
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。  
副会長は会長を補佐する。  
理事は本会の庶務を掌理する。  
会計監査は会計を監査する。  
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。  
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

## 第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

## 付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
- (昭和17年1月1日制定)  
(昭和25年度総会一部改正)  
(昭和37年度総会一部改正)  
(昭和40年度総会一部改正)  
(昭和41年度総会一部改正)  
(昭和46年度総会一部改正)  
(昭和50年度総会一部改正)  
(昭和51年度総会一部改正)  
(昭和56年度総会一部改正)  
(平成4年度総会一部改正)  
(平成11年度総会一部改正)  
(平成12年度総会一部改正)  
(平成15年度総会一部改正)  
(平成20年度総会一部改正)  
(平成21年度総会一部改定)  
(平成22年度総会一部改定)

## 「きたかみ」 57号トピックス



年末年始の大雪で桜古木倒れる！（工学部化学棟前）

### 編集後記

年末年始の大雪で、近年の雪の少ない冬に慣れてしまっていた私たちは、連日の雪かきでへとへとにさせられました。

上の写真は、正月休み中に、雪で倒れた工学部構内の桜の木で、会長の撮影です。

相当の古木で、工専時代の学生さんたちが植えたものかもしれません。

とはいえ、その大雪も大分消えて、春の息吹が遠くから聞こえて参ります。

「きたかみ 57号」をお届けします。

今号は、前回間に合わなかった小澤元会長を偲ぶ記事を、山崎元会長に寄せていただきました。

また、支部担当のページは盛岡支部が受け持って下さいました。楽しく興味深い記事になったのではと思いますが、いかがでしたか？

編集にご協力いただきました皆様に御礼申し上げますとともに、いつもながら無理な要求に即対応して下さいる阿部謄写堂さんに感謝です。

今年は科会創立 70 周年祝賀会を東京で開催いたします。沢山のご参加をお待ちしております。次号は特集号として、その模様などを掲載する予定です。

編集委員 柏葉 安兵衛（会長：昭和38年電気卒）  
長田 洋（事務局：昭和62年電気卒）  
木村 彰男（事務局：平成3年情報卒）  
柳橋 好子（事務局：昭和45年電子卒）

#### きたかみ 第57号

発行日 平成23年3月1日  
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号  
岩手大学工学部内  
岩手大学電気電子情報科会  
☎ 019-621-6381  
印刷所 (株)阿部謄写堂  
盛岡市本町通2丁目8番37号  
☎ 019-623-2361

# 平成 23 年度総会並びに懇親会開催のご案内

平成 23 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。なお、盛岡支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 23 年 5 月 11 日までにご連絡を頂きたいお願い申し上げます。

## 記

日 時 平成 23 年 6 月 11 日（土） チャグチャグ馬コ開催日  
盛岡支部総会 午後 2 時 30 分～ 3 時 00 分  
総 会 午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分  
講 演 会 等 午後 4 時 00 分～ 5 時 00 分  
懇 親 会 午後 5 時 00 分～ 7 時 00 分

場 所 岩手労働福祉会館  
盛岡市大沢川原 2 丁目 2-32  
TEL 019-651-7961

議 題 1. 平成 22 年度事業報告、決算報告承認  
2. 平成 23 年度事業計画案、予算案審議  
3. その他

講 演 会 演題「公衆電気通信サービスの進展とそのもたらすもの」  
講師：齊 藤 健 氏（昭和 38 年電気卒）  
前科会仙台支部長

懇親会会費 5,000 円（懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。  
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。）

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、  
下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科内）

長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

E-mail osada@iwate-u.ac.jp

木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp

柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

E-mail t.k-yngbs@nifty.com